内村鑑三先生書簡 九 完

大正三年（一九一四）

昭和五年（一九三〇）年

新年と共に御新家庭の上に恩恵のいや増さんことを祈上候

一九一四、一月一日

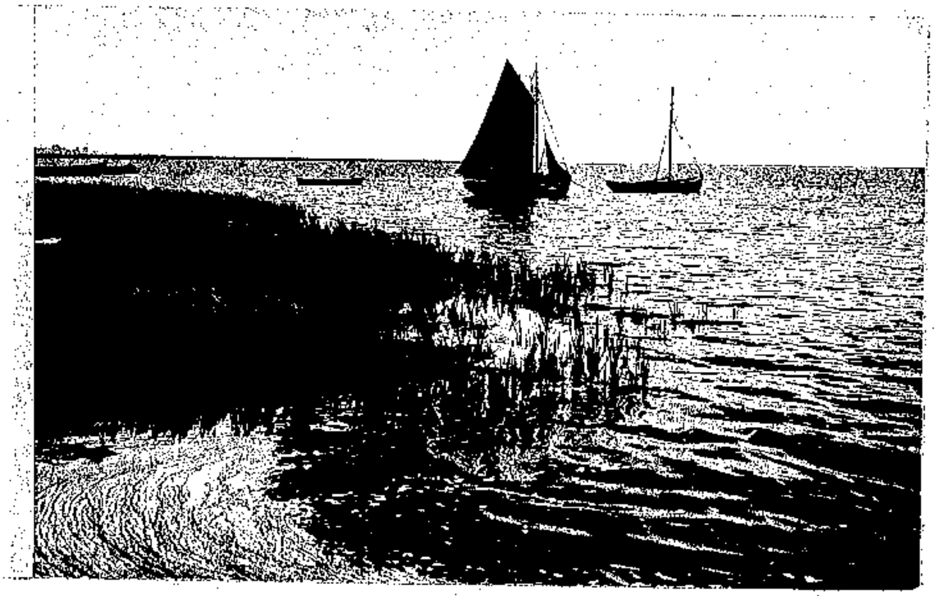
斎藤宗二郎君

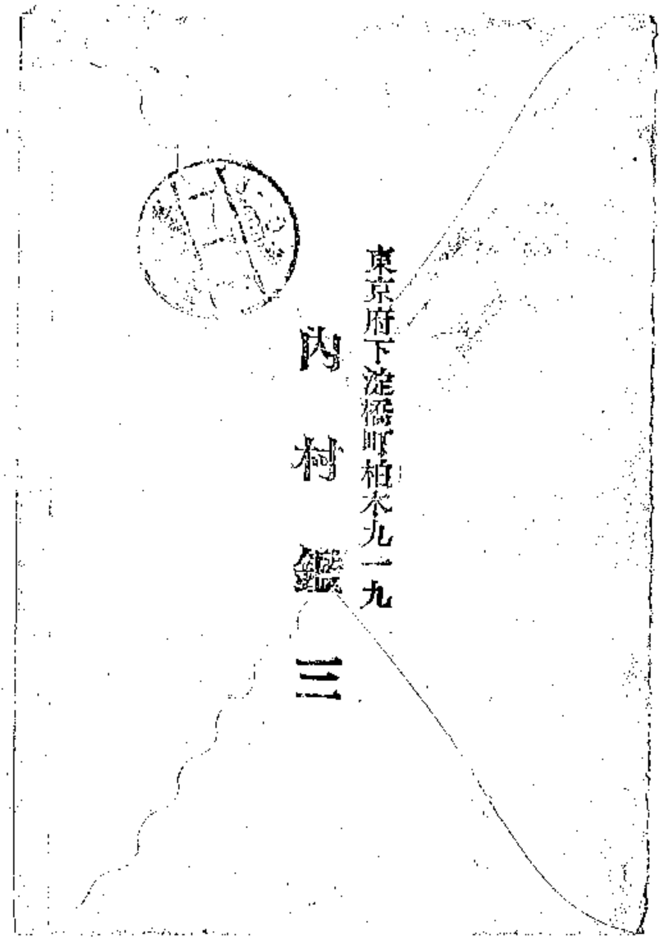
内村鑑三

PHOTOCHROMIE

Serie 159 No. 2889

陸中花巻川口町
斎藤宗二郎様




東京府下淀橋町柏木九一九
内村鑑三

拝啓、久振りにて御書
面に接し喜ばしく存候、
御一同様御変りなき
由大悦に存候、又此たび

は御地産物澤山に
御送り被下洵に有
難く奉存候、当方臺
所掛より厚く御礼申
出候、

当方不相変平穏に有
之候、今や敵と味方とは
判然と相分り前者の抗撃
も不苦又後者の賞讃も
望ましからず万事最後の

審判にも決定するからも
信じかたき人間の褒貶
には全て無神経に相成りたり
先般水澤より書面有之
大いに安心仕りたり彼等も而簡。
それたる者ある事が追々と
明かに相成り甚だ喜ばしく
存じ 尚は此上とも貴兄に
於て充分の御注意を
望みたり
神若し許し給はゞ今年は
復たび東北の春を賞したく
くありたし 然し是は小生の望み

にて聖旨如何は未だ定の

がなくば

右御返辞までは実い　匆々

一九一五、二月十五日

内村鑑三

齋藤宗二郎君

大正[illegible]4年2月15日

東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三

陸中花巻川口町

齋藤宗二郎様

拝啓　暑気日々に相加はり候處皆様御変り無之由
大慶に存じ奉り候、
扨て例年の通り御手作の苺澤山に御送り被下候
難有く存じ奉り候、今年は小生一統も在宅にて
家族一同と共に充分に之を味ふを得て一層の感
謝に存じ候、其後果して改良せしや或は退化せ
しや小生共には批評致し兼ね候、只かゝる事件の
當地には絶えて無之事は明白なる事実に有之

緘

巖手縣花巻町川口町

齋藤宗次郎様

大正四年六月二十日

東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三

家族、両親並に少数の友人と共に、うまい、うまい、と
云ひ、頂戴いたし候、
水沢に於ては洪水ありて吉田大なる悦びに有之候、此
地の事は常々小生の為に懸り候、
御地皆様の上に神の恩恵の豊かならん事を
祈り上げ候、　匆々

一九一五年六月二十日、　鑑三

齋藤宗次郎様　　祐之代筆

追伸　今年の苺は甚だ完全に有之、且つ着驛次第直に受取り候為腐敗せしもの一粒も無之候、

十ノ二十 松屋製

拝啓、当方よりは不相変
御無差汰仕り、先づ以て
御地皆様霊魂には御
変りなき由、是れ以て大に

感謝すべきことなりが、
此たびは特に又畑の産澤
山は御届け被下、相も変ら
ざる御好意誠に有難く
奉存候、山地の芋は特別
の味に有之、海の奥に勝
ろ所有之候、
岩手縣教友の此世の事に
関する状態の常に思はし
からざるは同情の至りに有之候、
盛岡の山本姉、花巻の照井
君、水澤の池田屋と數へ来
れば實に痛心の至りに存候

然し是れ齊しく試練時代に在る信者の普通状態にして、神が「善し」と認め給ふ時は夜は一時に去て平和の大陽の昇るものと信じ候、今暫らくの忍耐と存ず、又神はその擇び給ひし者を決して棄て給はず、靈魂に臨む恩恵は多くの場合に於ては身の不幸と正反對に來るものと存ず、斯かる問題に對する小生の態度は哥林多後書十二。

章廿八、廿九節の示す通りに
有之候
別紙今朝の講演の題目
に有之候、御参考までに
差上申候
右御礼までに申上候、匆々

一九一五年十月廿一日
（天長節午後）

内村鑑三

齋藤宗次郎君

天長節講演

聖書に於ける勤王思想

撒母耳前書十章二十四節

詩篇第七十二篇

羅馬書十三章一―九節

彼得前書二章十七節

大正4年10月31日午後　時

東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三

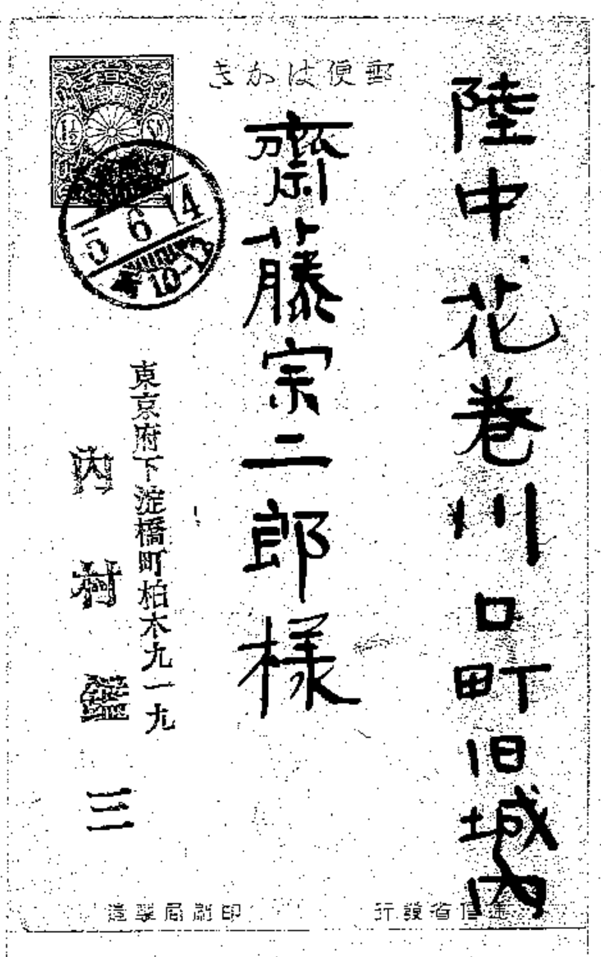
1

陸中花巻川口町

齋藤宗二郎様

拝啓、今年は珍らしくも小生
在宅中に御手作の苺に接し
其芳味を味ふを得て感謝の至
りに存り候。實に天下一品にて御芳志
の程深く御同情申上候。幸にして
家内も健康回復し、今日は遠
方の婦人会に臨み帰宅早々五
廿粒を平らぐるを得て本人は大
満足に有之候。今年の分は御注
意に依り傷み殆んと無之、誠に
結構に有之候。右不取敢御礼
まてに申上候 匆々

一九二六年六月十四日夕


郵便はかき

陸中花巻川口町旧城内

齋藤宗二郎様

東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三

逓信省發行　印刷局製造

信州追分に於て　一九一六年七月三十一日

拝啓、今回近火に就ては早速御見舞状を被下
尚又貴地諸君より貴き御寄附に與り誠に有がたく
（毎々の御寄附恐縮の至りに奉存候）
奉存候。先づ以て軽少の損害にて事済みに相成り候間
御休心被下度候。委細は八月号雑誌にて御承知
被下度候。誠に善き火のバプテスマを授かり申し候。
小生目下当地に罷在り執筆に従事すると同時に
旧き伝道地なる信州に在りて旧友の信仰復興を
計り居り候。始めに道義的キリスト教を注込まれし信者の
復興は甚だ困難に有之候。日本中を行（ある）いて見るに
「研究」読者の團躰程の確実なる信仰を保持する
信者の團躰に見当り不申候。之れ決して我田引水の
観察には無之と存候。諸君へ宜しく御伝へ下され
度候。草々

鑑三

齋藤宗次郎君

封 VII,31

信州追分関方

内村鑑三

岩手縣花巻川口町

齋藤宗二郎様

拝啓

御書面正に拝見仕り候、
御来越の貴兄京都行は
御控へに相成る方然る可くと
存じ候、僅か一日の會合の為
めに態々御地より御出向に
相成るの必要は無之と存じ候
尤も小生講演御未聴の必

安有之候はゞ貴兄或は其の他
の教友に於て當柏木まで御
出張有之候はゞ間に合ひ
申す可く候、或は又其の人
費を當方に御寄附被下
候はゞ小生に於て閑暇を
見計らひ一日御地まで参
上いたしても宜敷有之候、
長らく御地方へ参上仕らず
候間、或は一日小生より参上
致す方相方の利益かとも存ぜら
れ候、尤も時日の儀は當方
の都合に御まかせ被下度候
右御返事までに申上げ候
御地諸君が今日に至るも
高き信仰を維持せられ
且つ益々之れに進まるるを

聞き常に感謝罷在り候
匆々

一九一六年十月二十九日
内村鑑三

齋藤宗次郎様

〆

大正五年十月二十九日 午前後 時
東京府下淀橋町柏木九一九
内村鑑三

陸中花巻川口町
齋藤宗次郎様

拝啓
先般は御手製の干柿御送
り被下、誠に有難く存じ奉り候、
扨て御娘子の事に就き、御問
合せに相成、早速御返事申
上ぐ可きの処、御承知の通り
小生目下視力衰弱の為め自
ら筆を執る事困難にて、今

迄御返事延引仕り甚だ失
禮仕り候、女子の教育は実に
難問題に有之何人と御勸め
申して宜敷や小生にも分り兼ね候、
小生が如何なる方法を執りしかは
御承知の通りに有之候、若し
キリスト教の学校に御遣し女子の事
と御定めに相成り候はゞ當地
女子學院に優る者は無之と
存じ候、勿論之れにも缺点は
有之候へ共今日の處是以上
のものを求むるは甚だ困難に
有之候、多分其の辺にて御決
定に相成る方然る可くと存じ
候
右甚だ簡單乍ら御返事

までに申上候、匆々

一九一七年十二月十四日

内村鑑三

齋藤宗次郎様

〆

大正六年十二月十四日

東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三

岩手縣花巻川口町

齋藤宗次郎様

御書面正に拝見仕候。小生近頃身體の具合宜しからず。就ては豫ねての計畫たる東北旅行を実行し得るや否。今日の所にては確定致し兼ね候。何れ十二三日頃には決定致すべく候。尚其れまでは他に御通知固く御差控へ願上候。若し参上し得ば成るべく安息日に致すべく候。御返辞までに申上候　草々

1917 五月五日

内村鑑三

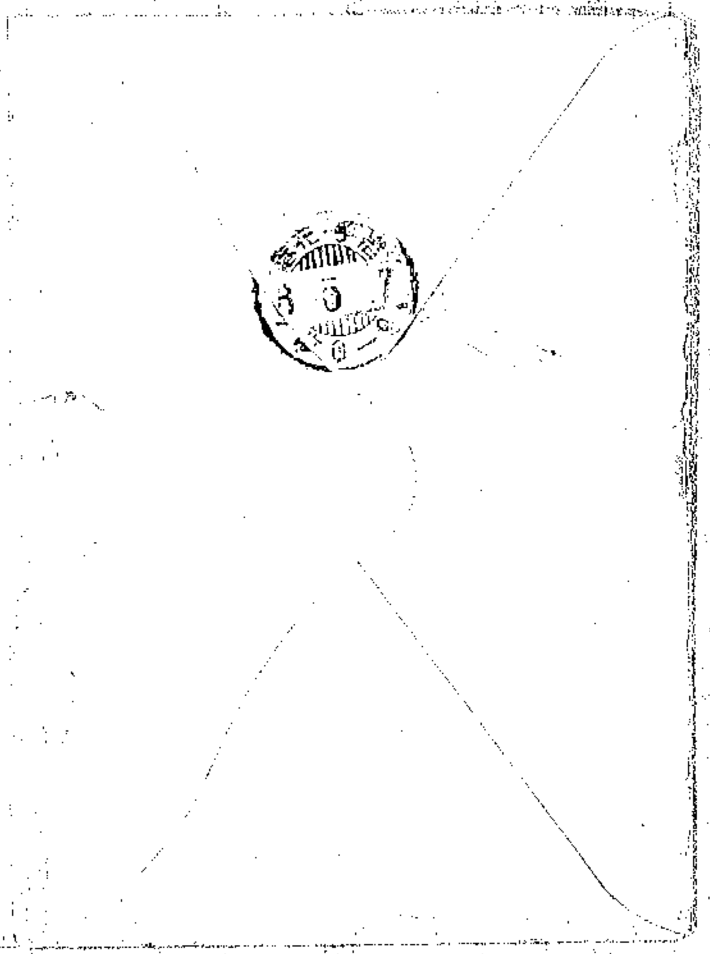
齋藤宗二郎様

陸中花巻川口町旧城内

齋藤宗二郎様

東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三



拝啓　小生自身具合は恢復致し候得共　後より後へと
小なる用事現はれ来り　且又山形縣教友よりは今年は見
合はし呉ろとやう申来りしにつき　其れや是れにて今春の東
北巡遊は見合はすことに致し候間左様御承知被下度候
何れ其内神が餘儀なくなし給ふ機会到来致すべくと存候
水沢へは小生より通知致し置候　御地諸君へ宜しく
御傳へ被下度候　匆々

1917　五月十一日

花巻　斎藤君　　内村鑑三

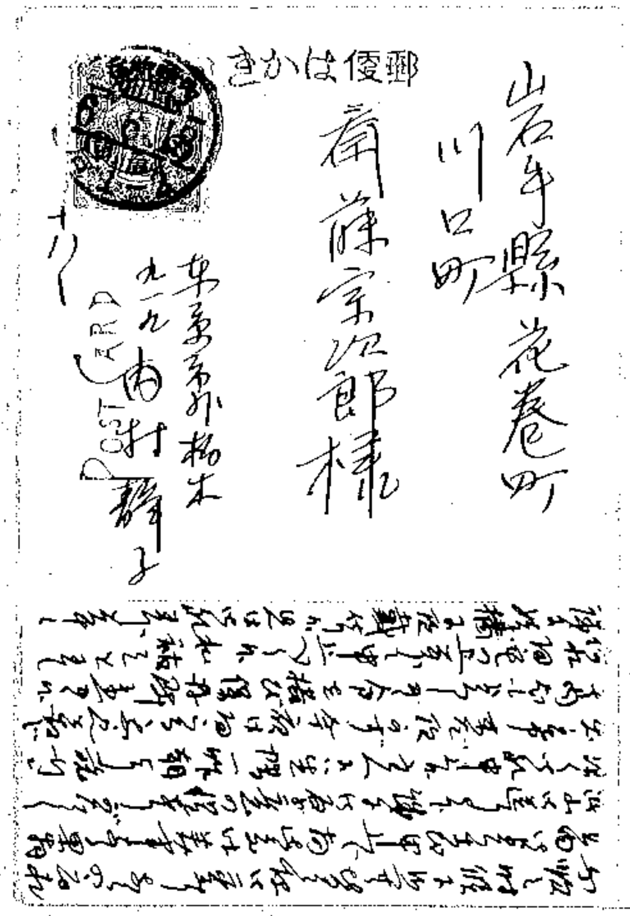
大正六年五月十一日

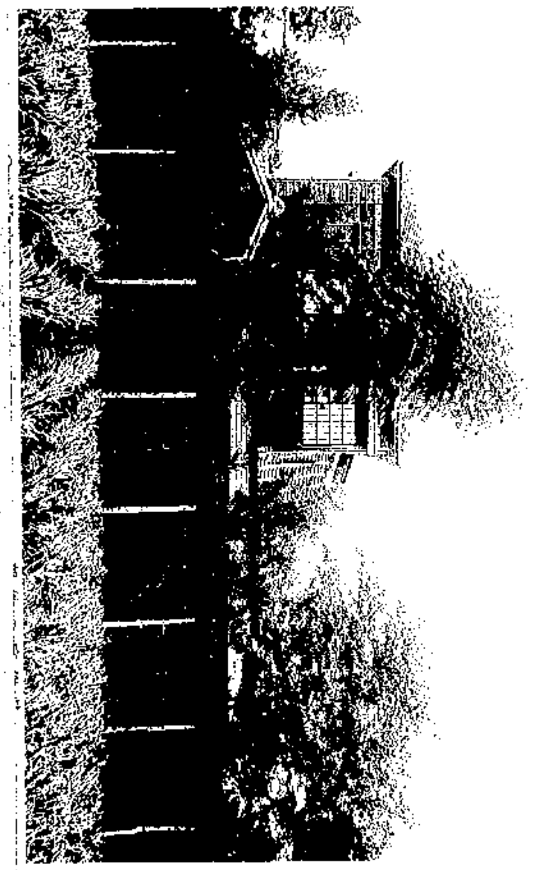
東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三

陸中、花巻川口町

齋藤宗二郎様


郵便はかき
POST CARD
岩手縣花巻町
川口町
斎藤宗次郎様
東京府外柏木
九一九
内村静子



6月21日.1917.

余の愛する斎藤宗次郎君

拝啓 今年も亦御手作苺の御送与に預り有がたく奉存候 然るに昨年一昨年と同じく小生不在中に達し候ため小生は其のまゝの物を頂だいするを得ざりしは残念至極に有之候 然し家の者並に信仰の友は小生に代り充分に御馳走に預り大なる喜びに有之。小生に取りても自身頂だい致せし丈けの喜びに有之候 毎年の御心添へ重ねて御礼申上候 毎年六月中旬には夏期印刷物編纂のために外出するを常と致し居り候ため此天下一品を賞味するの機会を逸せざるを得ざるは残念至極に有之候 然し之れ所避け難き事にて止むを得ざる事に有之候

昨日日詰町の日基教会の伝道師石川嘉次郎氏なる者の訪問を受け候 至て善き人物のやうに見受け申候 善く福音宣伝の精神を話しおき候

以上御礼までに申上候 貴地兄様へ宜しく御伝へ下だされ度候 内村鑑三

36.
大正六年
六月廿一日

陸中・花巻川口町
齋藤宗二郎様

封

大正六年六月廿一日

東京府下淀橋町柏木九一九
内村鑑三

拝啓
先般御地立寄りの節は
色々と御厚意に預り有
難く存じ候、之によって又旧
交を温むるを得て大なる
感謝に有之候、
帰宅後別紙の如きもの

到着致し候に付き御目にかけ申し候、勿論小生はかゝる者に動かされずと雖も又他人の批評に一顧の價値なきに非ず、御注意迄に御送附申上候、

諸兄姉へ宜敷御傳へ被下度候、匆々、

一九一八年七月二十一日

内村鑑三

齋藤宗二郎様

大正六年七月二十五日

東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三

〆

岩手縣花巻川口町

斎藤宗二郎様

拝啓

御書面正に拝見仕り候、誠に歓ばしき音信にて神に感謝致し候、御寄附金五円大感謝を以て頂戴仕り候、原崎氏へも其の旨直ちに通知致し置き候、

人生最大の快楽は人に物を施

す事に有之候、其の次きの快樂
は借金を返す事に有之候、
貴兄は今回之れ等二大快
樂を同時に味はれし事と存
じ候、
右は御返事までに申上度く
候、　匆々
一九一八年一月二十七日
内村鑑三
齋藤宗次郎様

大正七年一月二十七日

東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三

〆

岩手縣花巻川口町

齋藤宗次郎様

郵便はかき

岩手縣
花巻川口町
齋藤宗二郎様

市外柏木九一九
内村鑑三

POST CARD

拝啓、当方よりは常々御
無沙汰仕り申訳無之候
扨又今回は例年の通り
御手作の西澤山は御送
り有難く奉存候、今年は
幸にして在宅仕り、生のままに
て頂だいする事を得て誠に
幸に有之候、今月下旬北海
道に渡りたく、途中水澤は
御面会致しなく候、御礼まで 草々
六月十四日

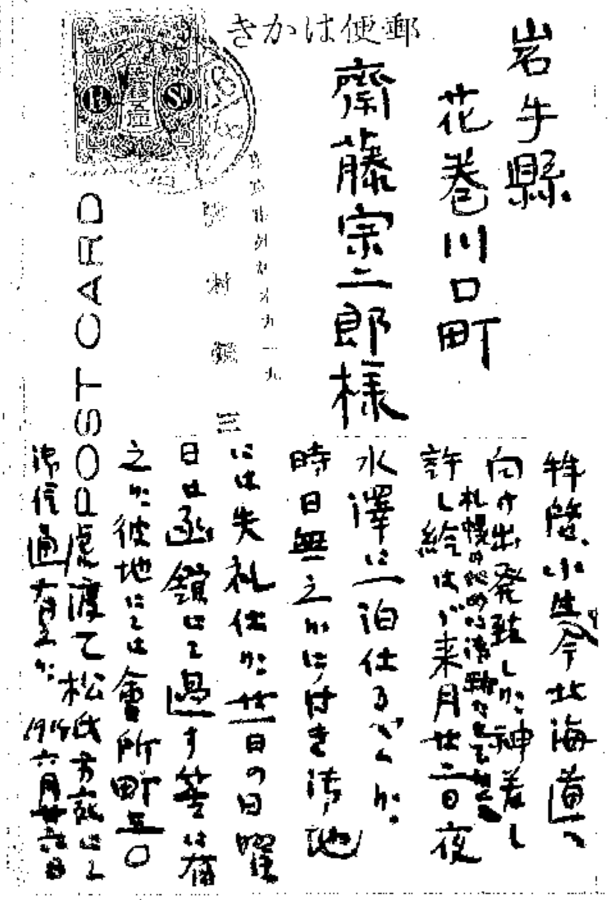
郵便はかき

岩手縣
花巻川口町
齋藤宗二郎様

東京市外柏木九一九
内村鑑三

POST CARD

拝啓、小生今般北海道へ
向け出発致し候、神の恵み
許し給はば来月廿二日夜
水澤に一泊仕るべく候、
時日無之候に付き御地
には失礼仕り候、廿日の日曜
日は函館にて過す筈に候
之候、彼地にては會所町五〇
[illegible]方にて松氏方に
御伝通有之候
六月廿六日


郵便はかき

POST CARD

岩手縣
花巻川口町
齋藤宗二郎様

拝啓、小生今北海道へ
向け出発致し候。神着し
許し給はゞ来月廿二日夜
水澤に一泊仕るべく候。
時日無之かに付き
には失礼仕り候。廿一日の日曜
日は函館にて過す筈。宿
之に彼地にては會所町五〇
虎渡て松氏方に
御信通有之候
1919 六月廿五日

大正七年初夏京阪神基督再臨講演記念

Kishi Matsuoka 松岡歸之　Kanzo Uchimura 内村鑑三　Shozo Aoki 青木庄蔵

大正七年初夏京阪神基督再臨講演記念

Kishi Matsuoka　　Kanzo Uchimura　　Shozo Aoki

松岡帰之　　内村鑑三　　青木庄蔵

拝啓、小生去月廿七日本道に来り
所々に講演致し大分疲労致したり
来る廿一日函館の講演を終り其
夜帰途に就き申すべくに就ては雑
誌編輯の時日も切迫致しに付き
水澤立寄は三時間か六時間に相
成るべく候間左様御承知願上候
多分二十三日午後二時五十七分御
地着、同九時二分にて発し申すべく候
其御積りにて御準備願上候、但し
使い果てし體の事として特別に御許しを
は出来申すまじく候間左の猶豫の御
承知願上候、北海道は広大に嘆取られ
甚だ困窮仕り候、確実の時間は電
報にて御通知仕るべく候、草々
1918 七月十六日

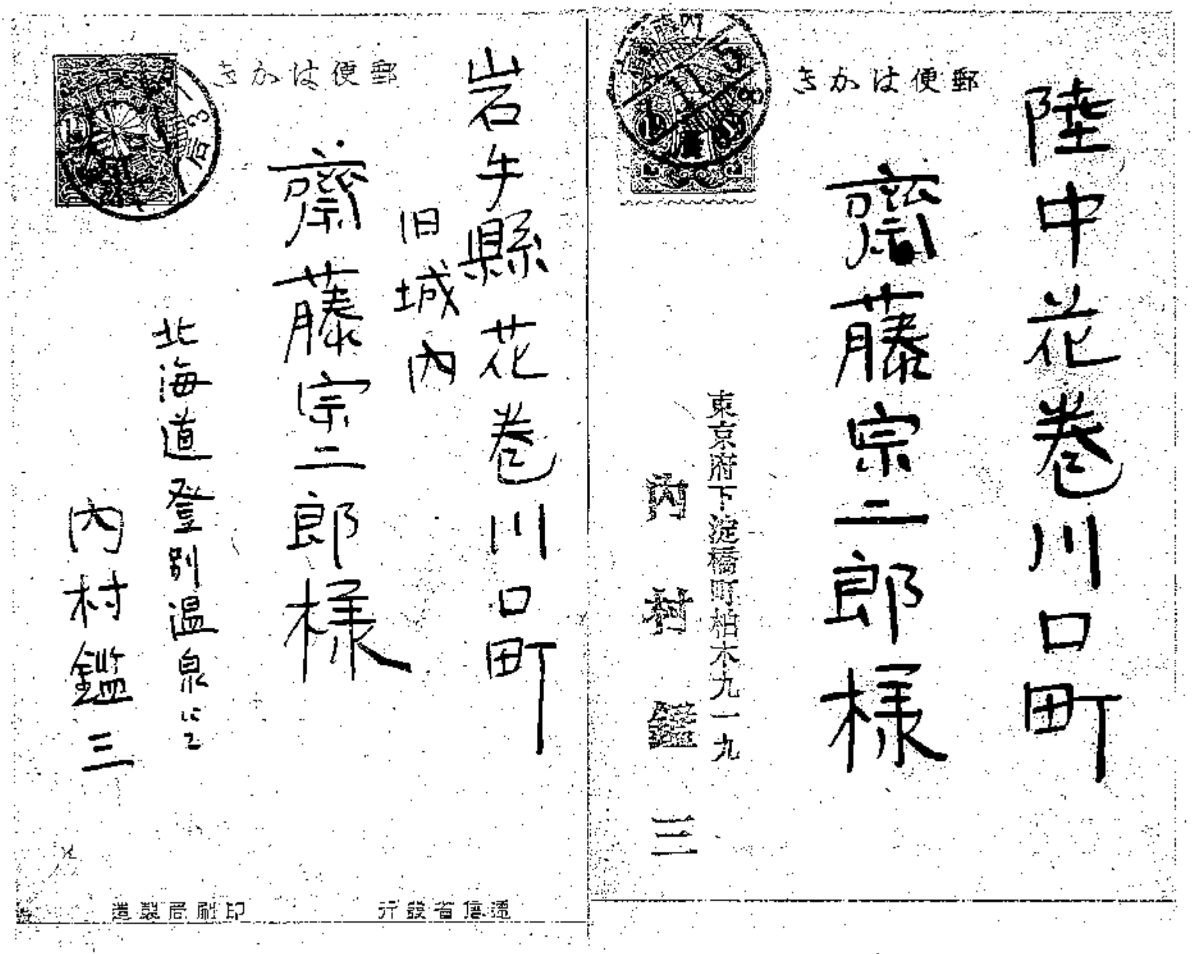
基督再臨研究東京大會

神若し許し給はゞ來る十一月八日九日十日の三日間（毎日午後二時と七時の二回）に渉り東京神田美土代町基督教青年會館に於て基督再臨研究東京大會を開き候に付き同信の諸兄姉方に於ては俗て御來會相成度候、我等此會合に於て相互の親睦を厚うし同時に再臨の大問題に就き之を諸方面より研究致したく存候、我國内外の諸名士は此問題に關する各自の蘊蓄を披攊せらるべく、而して又近き將來に於て日本全國基督再臨信者大會を開設仕り度又更らに進んで全世界基督再臨信者大會へ我國同信者の代表者を送るべき準備を爲したく存候、此信仰は以て人種教派等の離隔を取去るに足る充分の勢力なりと確信致し候、或は神は今の時に當り此使徒時代の信仰を復活し給ひて基督教の世界的復興を計り給ふに非ずやと考へられ候、我全國同信の諸兄姉に於ては此際特に此會合の爲に御熱禱を加へられんことを偏へに願上候　敬具

千九百十八年十月

發起人

オルトマンス（明治學院）
バンカム（聖公會）
ミス、クラゲット（バプチスト教會）
坂田祐（バプチスト教會）
内村鑑三（聖書研究社）
中田重治（東洋宣教會）
澤野鐵郎（基督友會）
平出慶一（メソヂスト教會）


郵便はかき
陸中花巻川口町
齋藤宗二郎様
東京府下淀橋町柏木九一九
內村鑑三

郵便はかき
岩手縣花巻川口町
旧城内
齋藤宗二郎様
北海道登別温泉にて
內村鑑三
遞信省發行
印刷局製造

拝啓、先日は貴き御寄贈
御送り被下洵に有難く奉存候
来る十七日より三日間大阪大会
に有之候 特別の祈祷を以て遙に
御助けとうたく願上候
旧職髙橋キエより百合根送り呉
れ候に早速礼状差出したる所
受取人不明とて其まゝ帰り来り
候 御面会の節小生より感謝の
意を御傳へ被下たく候
別封を以て写真帖一冊進呈
仕候 以上御礼までに申述草々

一九一九年一月十四日

郵便はかき

陸中、花巻川口町

齋藤宗二郎様

東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三

遞信省發行　印刷局製造

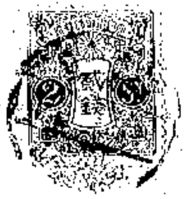
一九一九年十一月十五日

東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三

陸中花巻川口町

齋藤宗二郎様



（進呈）

WRITING PAD

No.

花巻斎藤君

拝啓、御差出の草苺
只今正に落手仕り候今年も亦
例年の通り御労働の結果
をいただく事を得て感謝の
至りに存じ候 是は今は年中
行事の一と相成り、六月に入
りてよりは花巻の苺を味ふに
非れば外出せざる事に相成
り誠に幸いなる事に有之候
此恩恵の今後永く続かん
事を祈り候

当方に係はる萬事は雑誌
面にて御承知被下度候 六月
号は明日発送の筈に有之候

以上不取敢御礼まで
に申上候 匆々

内村鑑三

6月11日, 1919.

午後五時

聖書に基き福音的眞理を闡明し、併に基督教界に澎湃する異端と俗化を矯正するを目的とし、左の會を來十三日(火曜日)午後七時神田基督教青年會館に於て開催す。

基督教界 革正大演說會

辯士
伊藤一隆　土岐孝太郎　中田重治
内村鑑三　青木庄藏

發起人
伊藤一隆　土岐孝太郎　高岩義政
長尾半平　矢沼伊三郎　福永文之助
青木庄藏　齋藤梅吉　澤野鉄郎
坂田祐　森村市左衛門
(イロハ順)

拜啓今般東京基督教青年會に於て都合に由り五月限り日曜講演中止相成り候に付き内村先生の聖書講演は當團に於て繼續致し來る六月一日(第一日曜日)午後二時半より麹町區大手町一丁目内務省前大日本私立衛生會に於て開會致し候間例日の通り御出席相成度此段御通知申上候　敬具

一九一九年五月廿九日

柏木兄弟團

郵便はかき

拜啓今般東京基督教青年會に於て都合に由り五月限り日曜講演中止相成り候に付き内村先生の聖書講演は當團に於て繼續致し來る六月一日（第一日曜日）午後二時半より麴町區大手町一丁目内務省前大日本私立衞生會に於て開會致し候間例日の通り御出席相成度此段御通知申上候　敬具

一九一九年五月廿九日

柏木兄弟團

陸中.花巻川口町

齋藤宗二郎様

KANZO UCHIMURA

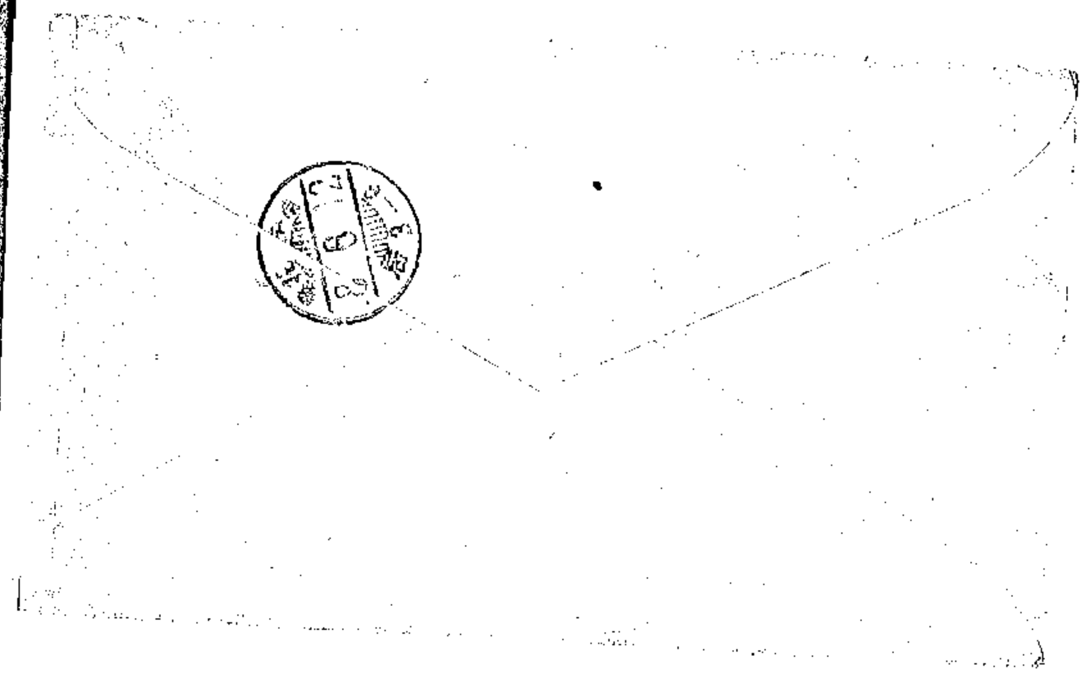
919 KASHIWAGI,

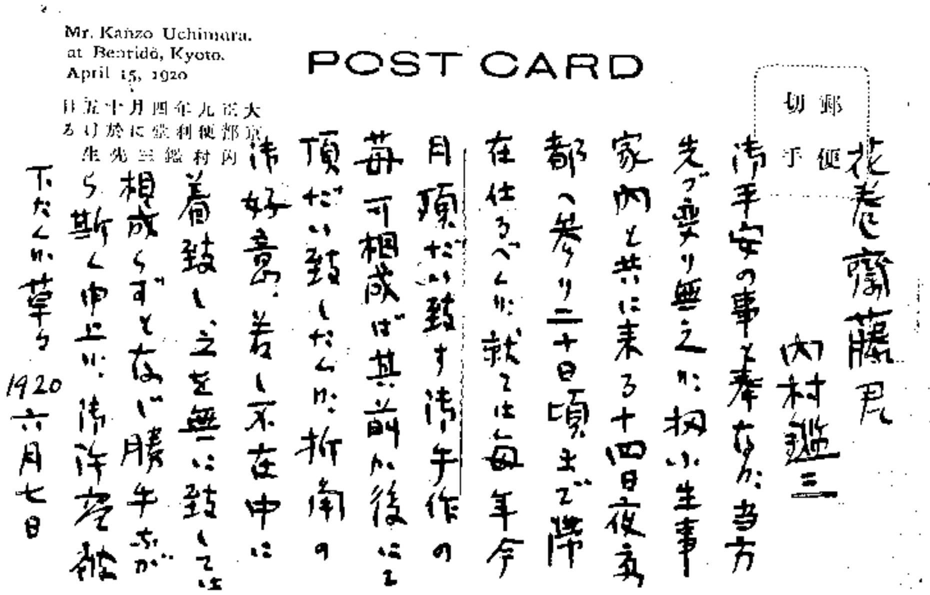
TOKYO, JAPAN

東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三

郵便はかき





Mr. Kanzo Uchimura.
at Benridō, Kyoto.
April 15, 1920

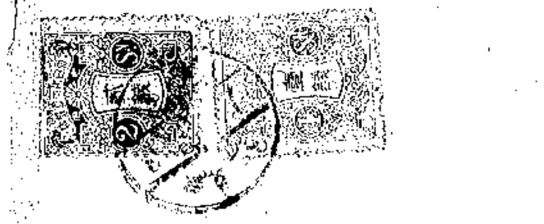
大正九年四月十五日
京都便利堂に於ける
内村鑑三先生

POST CARD

郵便
切手

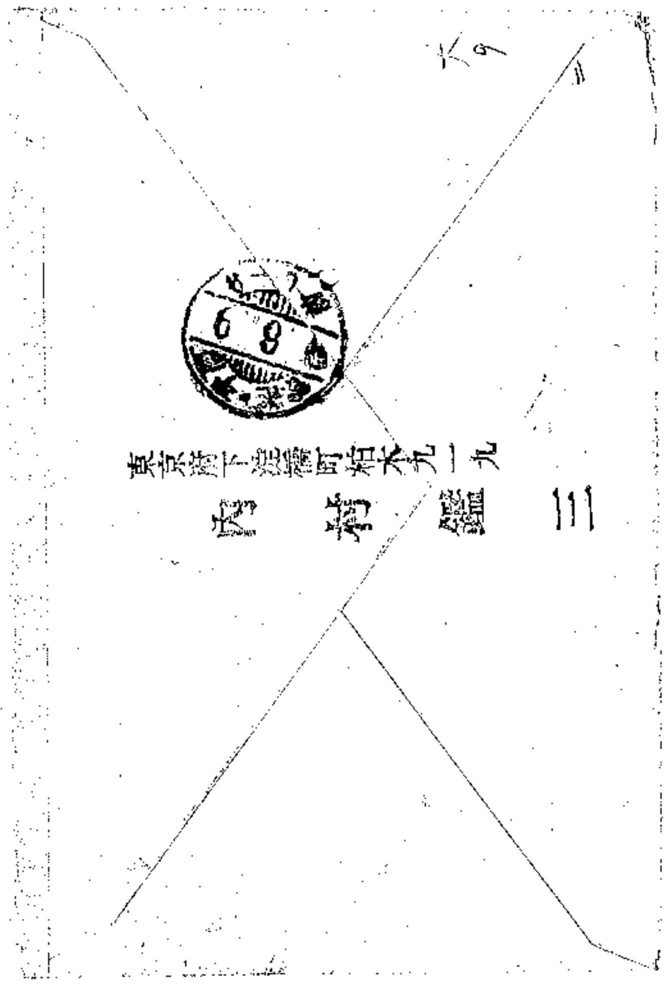
花巻 齋藤君
内村鑑三

御平安の事ゝ奉存候当方
先づ変り無之候扨小生事
家内と共に来る十四日夜京
都へ参り二十日頃まで滞
在仕るべく候就ては毎年今
月頂だい致す御手作の
苺可相成ば其前か後にて
頂だい致したく候折角の
御好意若し不在中に
着致し之を無に致しては
相成らずとなし勝手ながら
ら斯く申上候御許容被
下たく候草々
1920
六月七日



岩手縣陸中
花巻川口町
齋藤宗二郎様

(六月七日)

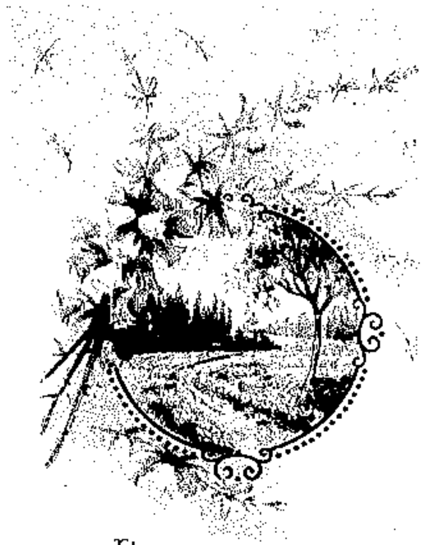

東京府下淀橋町柏木九一九
内　村　鑑　三

拝啓、早速苺澤山に御送り被下
有難くぞんじます。是で先づ今年も謝(おだ)
食(だく)べき者をいただきて感謝して旅立ち
する事が出来ます。どうぞ今後尚ほ
幾回(いくたび)も之をいただいて此世に於て善き
仕事を為し得るやう祈ります。
池田政代病氣の由、同情に堪えません。
然し彼女は生れし甲斐のある生涯に入
り神の御栄えを顕はすための器(うつは)として
使はれしこと、実に感謝の至りであります。
御序の節宜しく御傳へ下さい。草々

大正九年六月十三日

内村鑑三

花巻齋藤君



Thy KINGDOM Come

In the days of these kings,
shall the God of heaven
Set up a kingdom,
which shall never be destroyed.
Dan. 2:44.

©

POST CARD

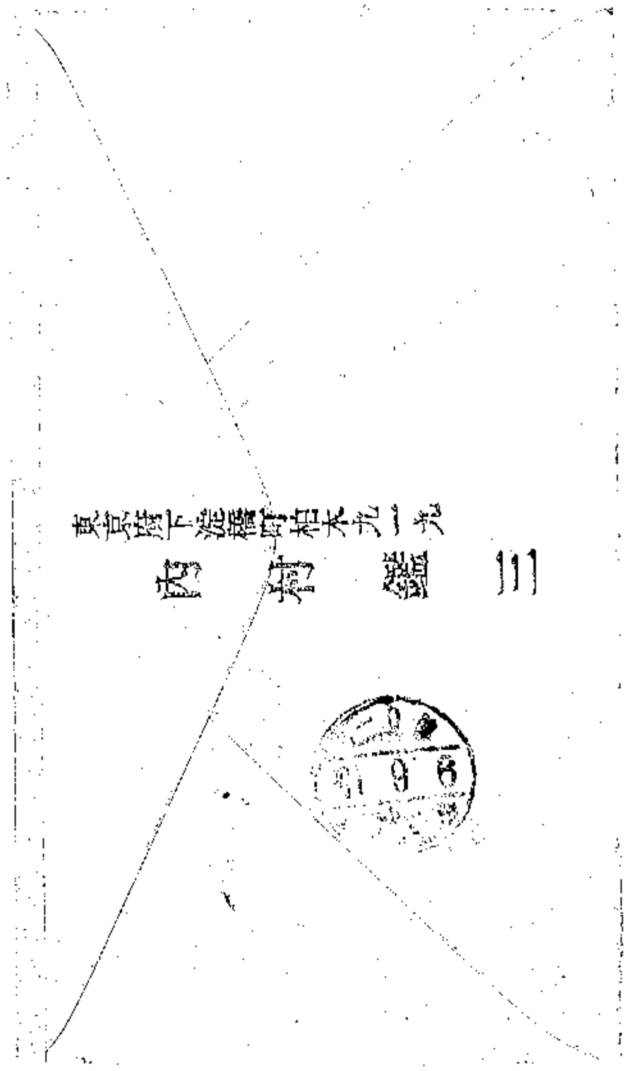
FOR CORRESPONDENCE

FOR ADDRESS ONLY

MADE IN U.S.A.

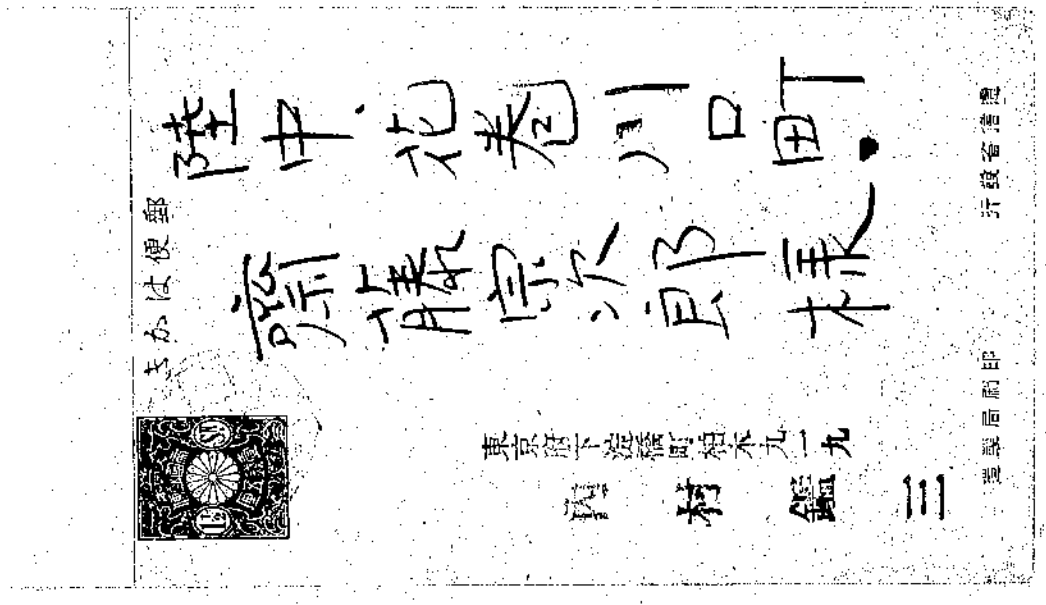
Series 803 A

岩手縣
花巻川口町
齋藤宗二郎様


東京府下淀橋町柏木九一九
内村鑑三

拝啓、御地方大風雨の由に有之候得共別に御損害無之候や伺申上候 匆々

一九二〇年八月十一日


郵便はかき
陸中花巻川口町
齋藤宗次郎様
東京府下淀橋町柏木九一九
内村鑑三

御平安の事と存候　扨小生義
来る十四日近所の山地へ休
養のための引籠りに就ては差
し今年も例年の通り御手
作の苺を頂だいするを得るなら
ば其れまでには少しなりとも賞
味するの特権は與りたく候
毎年杜鵑花の咲く頃には
花巻より大粒苺の来るもと
に定まり居りし事とて茲に
勝手至極ながら御催促申上候
御赦し下されたく候　匆々
六月七日

6月11日1921.
拝啓、御発送の分
今朝正に無事に落手
仕り御主意感謝仕
り今年も先づ此恩恵
に與ることが出来て大
感謝に有之候。尚は
少くとも十回位ねは頂
きものとなり　而して花巻より
苺を年毎に味ふ間は
福音の戦士として立ち
たくなり。小生近頃健
康勝れざりしも今日の晝
飯丈けは近頃になき満
足なる者に有之り。是れ
御手作の苺が添へられし
が故に有之り　御礼まで
鑑三

郵便はかき

岩手縣花巻川口町

齋藤宗次郎様

東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三

遞信省發行　印刷局製造

郵便はかき

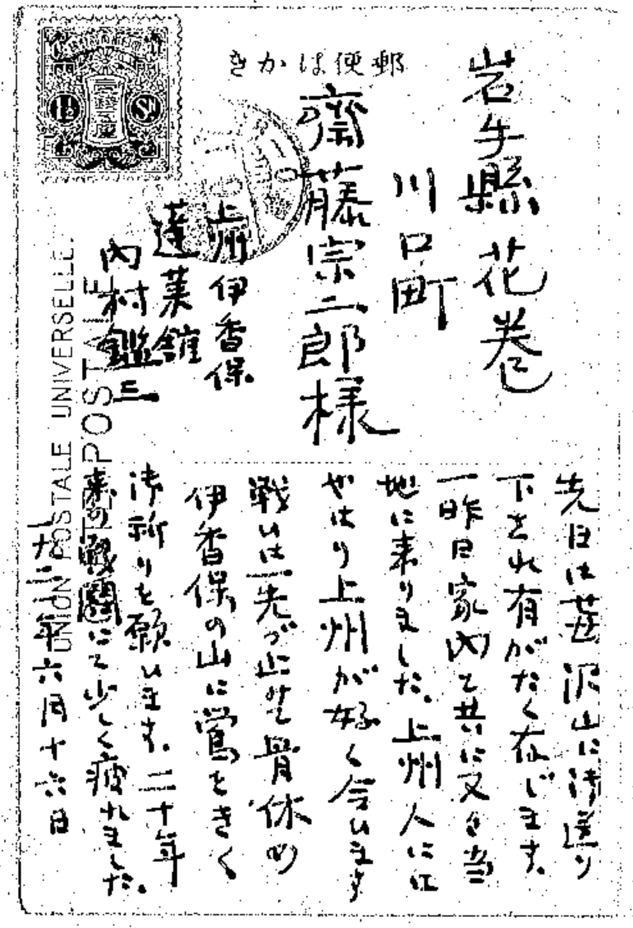
岩手縣花巻川口町

齋藤宗二郎様

東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三

遞信省發行　印刷局製造


郵便はかき

UNION POSTALE UNIVERSELLE

岩手縣花巻
川口町
齋藤宗二郎様

上州伊香保
蓬莱館
内村鑑三

先日は茜沢山に御送り下され有がたく存じます。一昨日家内と共に又々当地に来りました。上州人にはやはり上州が好く合います。戦は一先づ止せて骨休めに伊香保の山に鶯をきく。御祈りを願います。二十年来の戦闘にて少しく疲れました。
一九二一年六月十六日

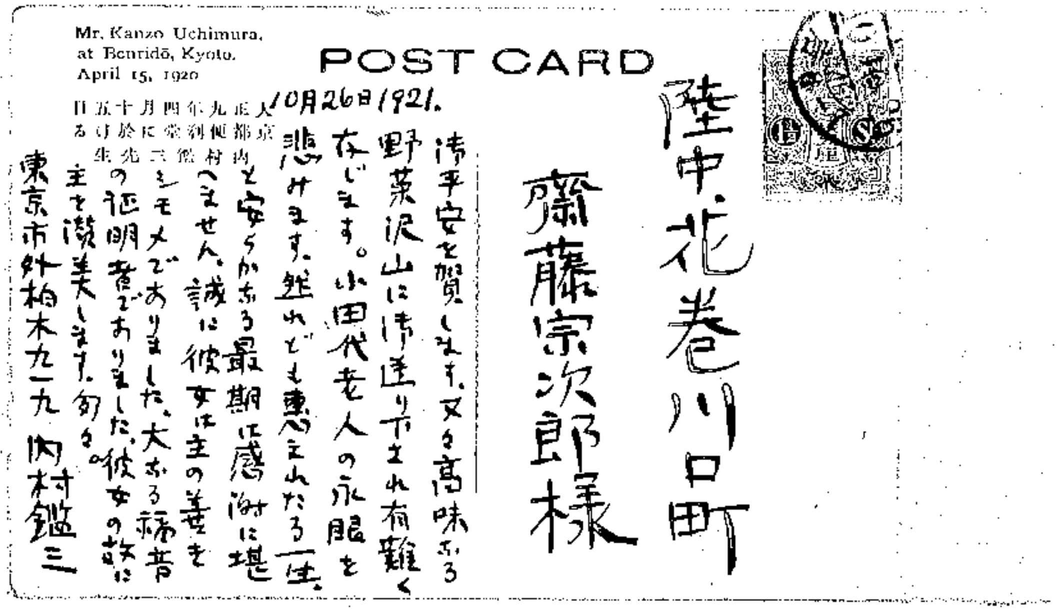
View of Haruna [illegible]

岩手縣花巻川口町

齋藤宗二郎様

東京府下淀橋町柏木九一九
内村鑑三

一九二一年十月に発行 霊交 第三号に掲載さる



Mr. Kanzo Uchimura,
at Benridō, Kyoto.
April 15, 1920

大正九年四月十五日
京都便利堂に於ける
内村鑑三先生

POST CARD

陸中花巻川口町
齋藤宗次郎様

10月26日1921.

御平安を賀します、又々高味ある野菜沢山に御送り下され有難く存じます。小田代老人の永眠を悲みます。然れども恵まれたる一生と安らかなる最期に感謝に堪へません。誠に彼女は主の善きしもめでありました、大なる福音の証明者でありました、彼女の故に主を讃美します。匆々。

東京市外柏木九一九 内村鑑三

拝啓、
御平安を賀し候、
當方よりは相變らず其不
沙汰仕申譯無之候、
扨て問合せの件につき、
小生の考ふる處によれば

東京女子大學の方宜敷
と存じ候、其の学生にし
て小生の處に來る者を
見受け候に大いに愛す
べき処有之甚だ悦び居
り候、多祈するとも
其の上全くならん人未は実
の初に招きし處に有之候、
右は返事までに申上候
匆々

大正十一年二月十七日

内村鑑三

齋藤宗次郎様

岩手縣花巻川口町

齋藤宗次郎様

〆

壹壬年二月七日

東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三

KANZO UCHIMURA
919 KASHIWAGI,
TOKIO, -- JAPAN

6月8日1922.

愛するサイトウ君,

今年は到底戴けないと覚悟して居りました御手作の苺を御送り下されまして例年の通り之を味ふを得て大悦至極に存じます. 味は少し落たやうでありますが然し落ちても花巻産の味でありまして, 当地産などの到底及ぶ所ではありません. 茲に厚く々々御礼を申上げます。

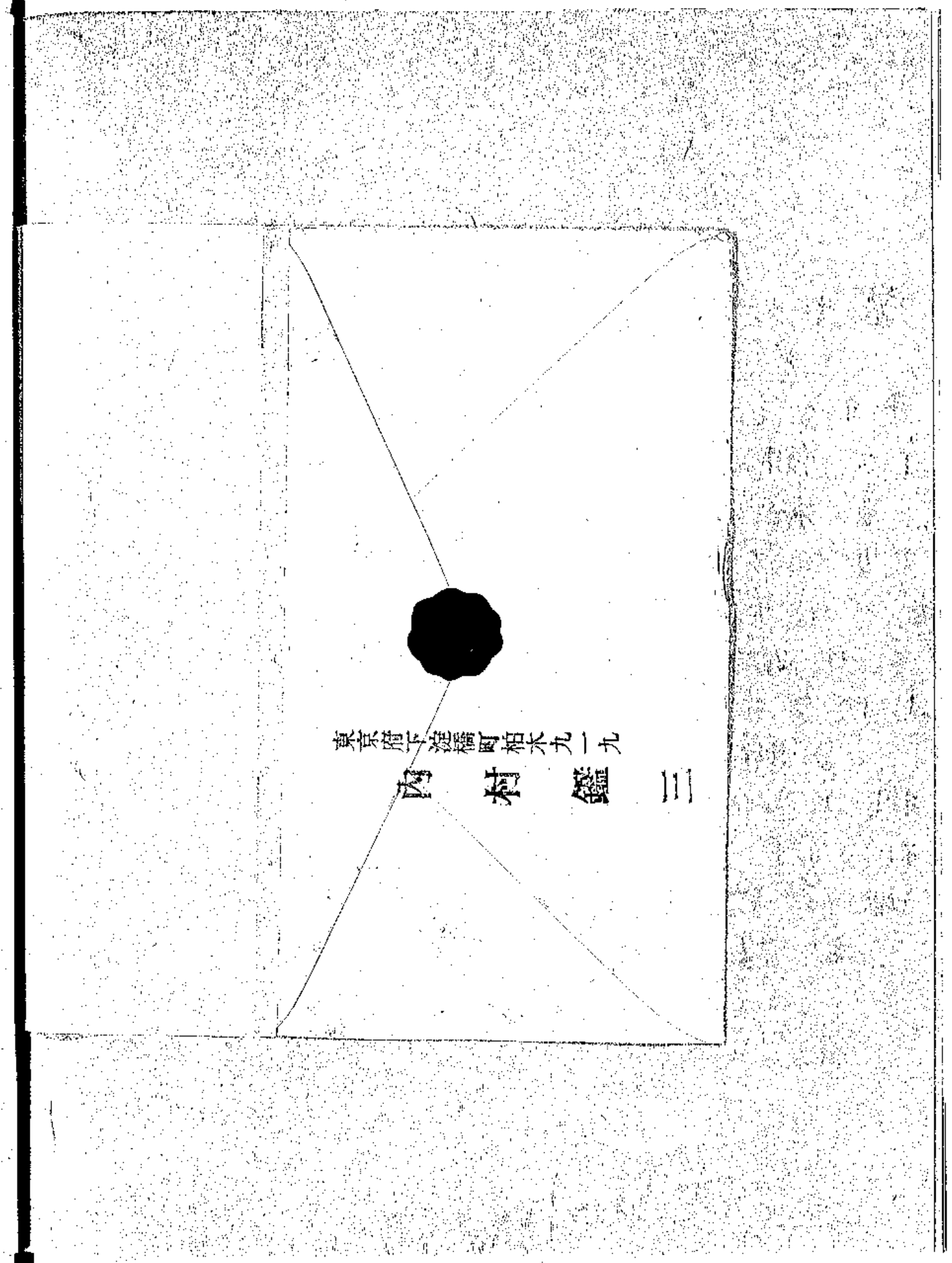
多新ちゃんには近頃は度々御目に掛ります. 日曜学校も助けていただきます. 何んだか別の世界に居るやうな心地が致します.

お礼までに申上げます 匆々

内村鑑三

陸中、花巻川口町
旧城内
齋藤宗二郎様

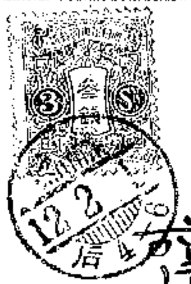
六月八日


東京府下淀橋町柏木九一九
内村鑑三

愛する齋藤君、

電報に接し驚きました。直に返電差出しておきました。其後御書面にて彼女の平和の永眠に就て承はり神に感謝しました。丁度去る日曜日大手町の高壇より彼女に就て話しました（彼女の名は示しませんでしたけれども）。其時刻には彼女は天国に召されつゝあつたのだと信じます。実に不思議です。彼女一人が救はるゝ為に小生の東北傳道があつたのだと思へば大満足であります。実に貴きものは人の靈魂であります。彼女の信仰は東北教化の為に大勢力となりて残ると信じます。ハレルーヤ 大勝利 大感謝であります。匆々

内村鑑三



陸中花巻川口町

齋藤宗二郎様

東京府下淀橋町柏木九一九
内村鑑三

拝啓、
清平安を賀し候、
例年の通り苺多量に
御送り下され、誠に有難く
存じ候、今年は在宅にて
充分頂戴する事が出来
甚だ悦び居り候、既に

十数年来頂戴せし事と存じ候、此上も永く同じ御恵共にあづかり、地上に於て福音のために働き度く存じ候、

御一家御揃て御地諸君の上に恩恵の益々豊かならん事を祈上げ候、

尚御禮までに申上候、匆々

大正十三年六月十四日

内村鑑三

齋藤宗次郎様

〆

大正十二年六月十四日

東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三

岩手縣花巻川口町

齋藤宗次郎様

POST CARD

齋藤宗二郎君

茲に謹んで貴家に
臨みし沛慶事を
祝します。

一九二三年八月十二日

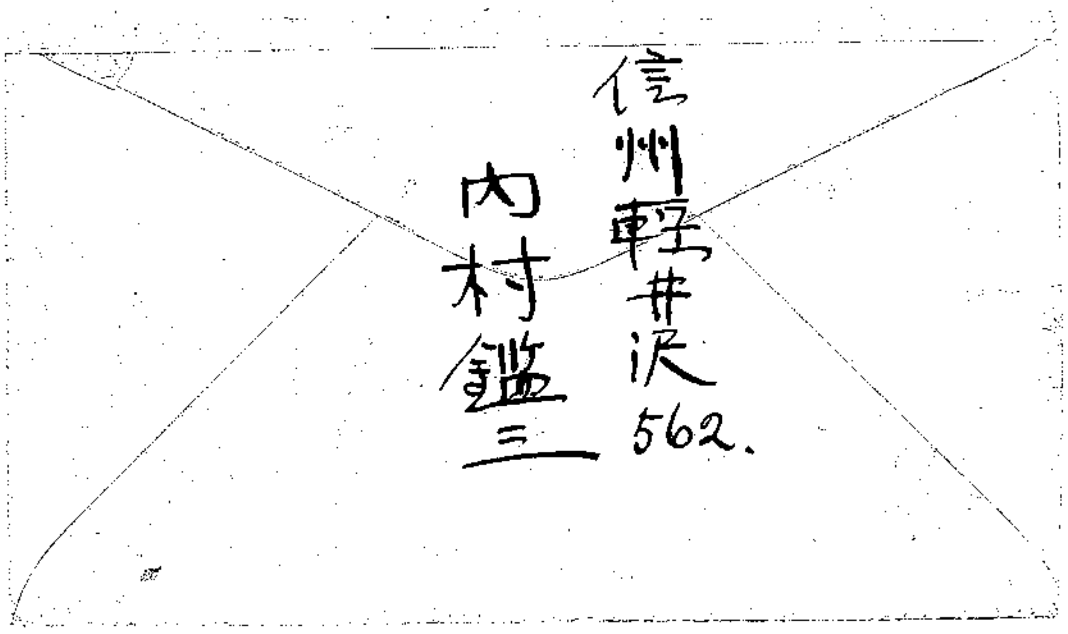
軽井沢五六二　内村鑑三

内村先生
1923

岩手縣

花巻川口町

齋藤宗二郎様


信州軽井沢
562.
内村鑑三

拜啓御平安を賀します。陳ば一子祐之事此たび神の御導きの下に久須美美代子と結婚致すことに成りました。就ては此上更らに御懇親を重ね且又兩人の上に御祝福を祈て戴きたく存じますから來る十二月六日(土曜日)午後二時より五時まで柏木聖書講堂に於て茶話會を催しますから御出席被下やう偏へに願上げます。

猶又準備の都合も有之ますから御手數甚だ恐入りますが十一月三十日までに御出席の有無封入の端書に御記しの上御返送を願上げます　敬具

大正十三年十一月　日

内村鑑三
同　しづ

齋藤宗二郎樣

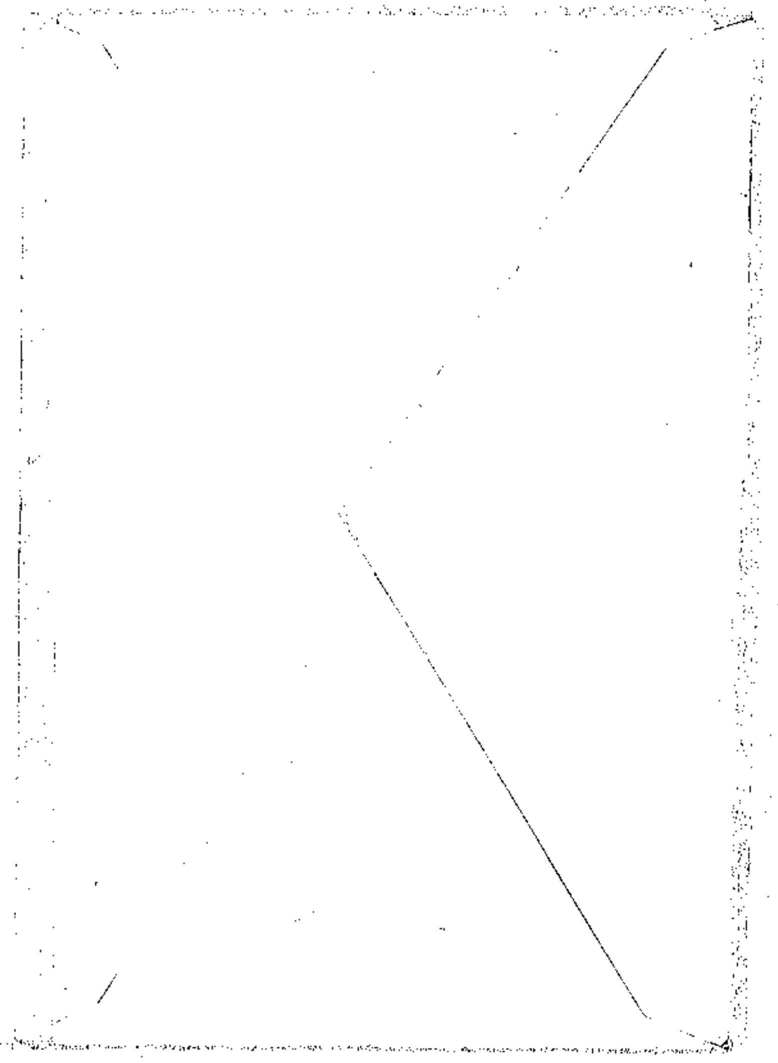
岩手県花巻川口町

齋藤宗二郎様

大正十三年十一月

新之善代ト結婚

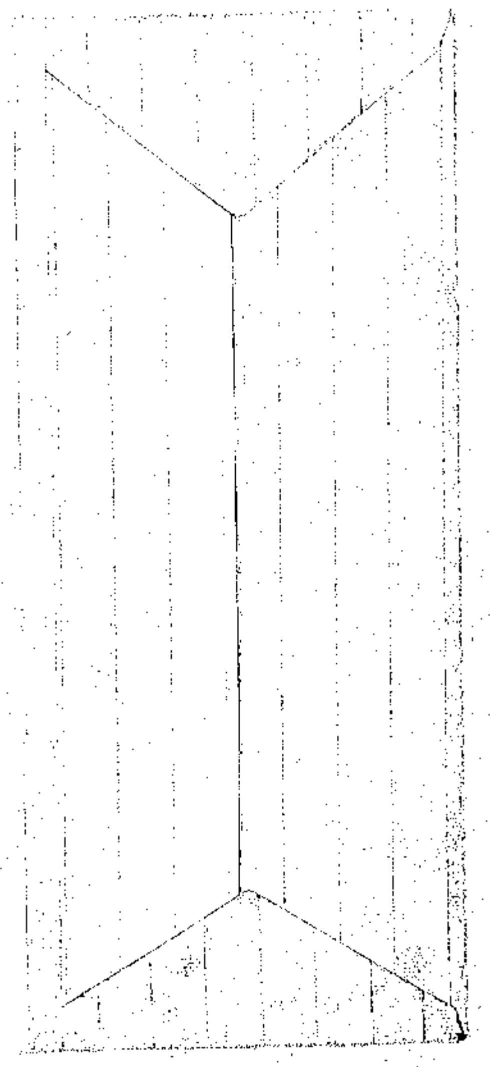
當後ニ招待状



汽車賃、自動車代、電車、

一泊料　諸費代等

計　十八円三十二銭也　費用



拜啓、追々春暖の候と成つて來ましたがお變りは御座いませんか。私事今般滿二年の豫定で海外に留學致すことになり、來る四月十六日神戸港出帆の箱根丸で最初に獨逸に向つて出發致します。當分の間お目に掛れませんが何卒御自愛の程を祈ります。失禮乍ら葉書を以つて御挨拶迄に申上ます

敬具

大正十四年四月六日

東京市外淀橋町柏木九一九

内村祐之

東京驛發
十五日午前八時四十五分

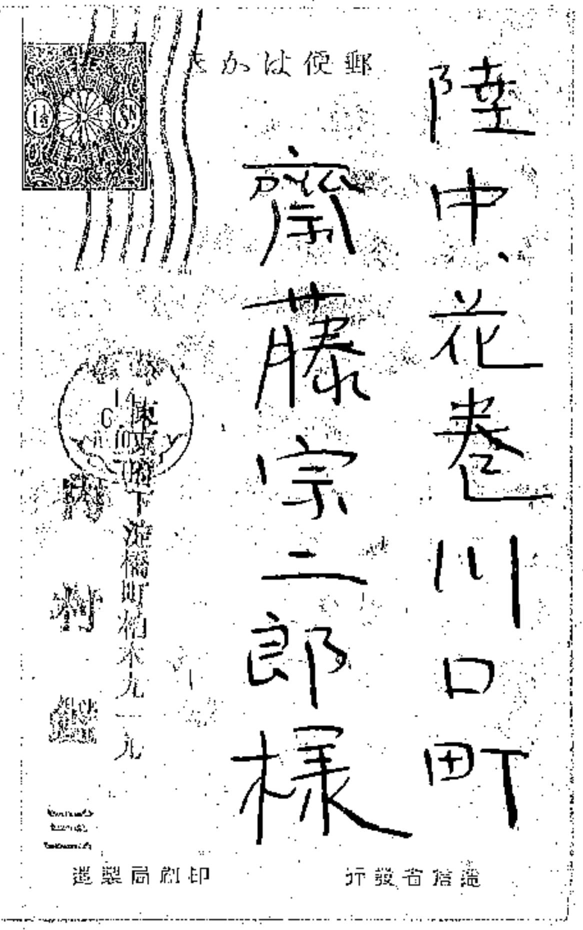
拝啓、御平安のこと、ぞんじます。小生少しく義務の果たすべきあり、来週函館まで行きます。就ては途中同地に下車して久振りにて諸君と相見え、殊にイチゴ畑にて手づから御手作の物を頂だい致したくあります。着の時間は電報にて申上げます。匆々 6月15日

拝啓、御平安のこととぞんじます。小生少しく義務の果たすべきあり、来週函館まで行きます。就ては途中御地に下車して久振りにて諸君と相見え、殊にイチゴ畑にて手づから御手作の物を頂だい致したくあります。着の時間は電報にて申上げます。匆々 6月15日

郵便はがき

陸中、花巻川口町

齋藤宗二郎様



郵便はかき

陸中、花巻川口町

齋藤宗二郎様

東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三

遞信省發行　印刷局製造

拝啓、今年も亦例年の通り美事なる苺沢山に御送り下され誠に有難く存じます。扨かねて申上置きし通り小生事明後二十四日午後一時発汽車にて函館に行きます。相成るべくば帰途に御地に立寄りたく存じます。先し三百号を前に控へて居ることなれば、函館の都合にて今回は失礼するかも知れません。彼地より電報にて申上げます。三百号記念會には御出席出来ません乎。御通知までに匆々

一九二五年六月二十二日

内村鑑三

花巻 斎藤君

陸中花巻川口町旧城内

齋藤宗二郎様

六月二十三日

東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三

電報送達紙

受信人居所氏名	
着信番號	
發信人居所氏名	ウチムラ
發局	テウ
第 號	第九號
月 日	
受付	午前八時二分
受信	午後八時 分
受信者 / 着務者	
指定	
記事	
着局日附印	14.6.27

第乙 五 番

拜啓御申込に由り七月第二日曜日十二日（雜誌に十四日とせしは誤り）午後三時東京市外淀橋町柏木九一九内村聖書講堂に於て開會の『聖書之研究』第三百號記念感謝會に此ハガキ御持參にて御出席下さい。敬具。

東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三

大正十四年七月

齋藤宗次郎様

道筋は省線中央線電車ならば大久保驛に、山手線ならば新大久保驛に下車西へ凡そ六七丁であります。

郵便はかき

岩手縣花巻川口町

齋藤宗次郎様

拜啓貴下の御平安を賀します。
此たびは『聖書之研究』第三百號紀念傳道並に幸福增進費の內へ金拾圓御寄附下され誠に有難く存じ奉ります。尚此上とも御祈りを以て御援助下さるやう偏に願上げます。御申越に由り小生自筆原稿別封を以て差上げましたから御受取を願ひます。御禮までに申上げます。　敬具

大正十四年七月十五日

東京市外淀橋町柏木九一九
内村鑑三

齋藤宗次郎樣

陸中花巻川口町

齋藤宗次郎様

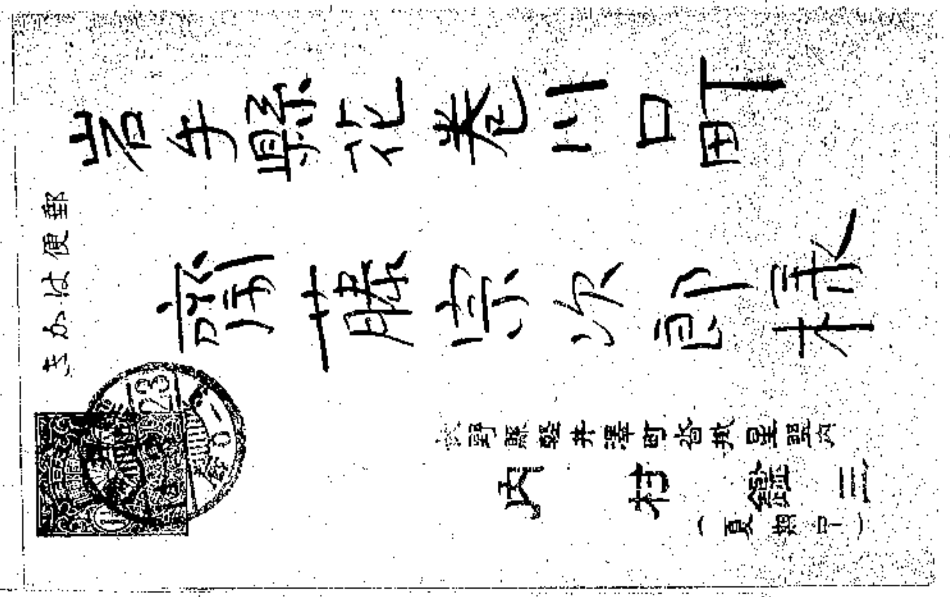
東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三

拝啓、多祈ちやん
御病気の由、御
心配の事と深く御
同情申上候、但し
天然地上の力の我
等の間に働きつゝ
あるは御承知の通
りに候、匆々
八月廿二日

御書面正に拝見
しました。多祈子様
不思議に御快方
の由さぞかし御喜
びの事と御同情
申上げます。御恵
みの此上とも貴家
に加はらんことを
祈ります。小生
明九日柏木に
帰ります。匆々
カン三

9月8日 1925.



郵便はかき

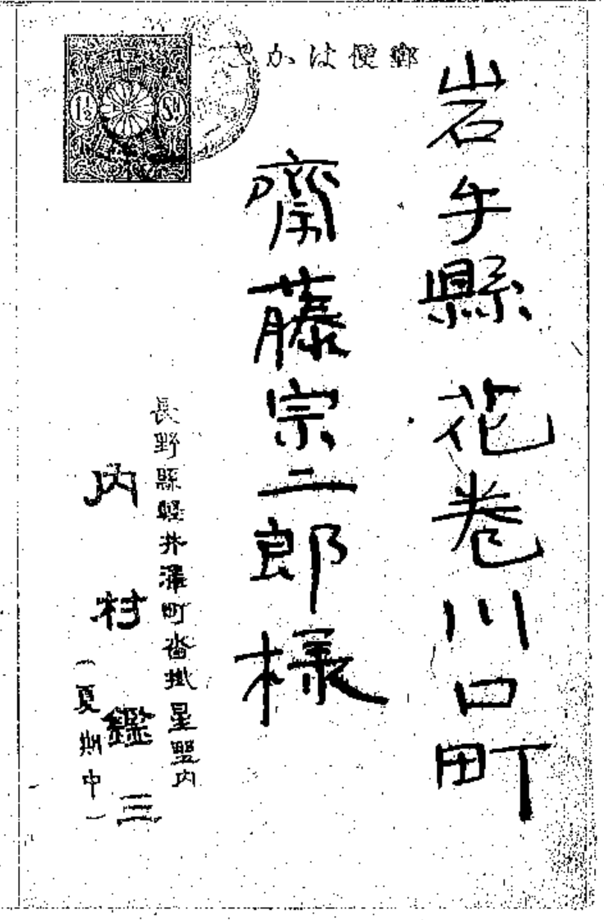
岩手縣花巻川口町

齋藤宗次郎様

長野縣軽井澤町沓掛星野内

内村鑑三

（夏期中）



郵便はかき

岩手縣花巻川口町

齋藤宗二郎様

長野縣軽井澤町沓掛星野内

内村鑑三

（夏期中）

齋藤宗次郎君

拝啓 今年も亦苺正に頂だい致しました。君の東京御移転と共に之が最後かも知れません。さう思へば感慨一と深しであります。殊に今年は東北を「日本の尻尾と罵りし後であります れば頂くに少しく氣が引けました。左の一首を以ていく分罪を償います

花巻や赤きいちごの真心（まごころ）に
尻尾（しっぽ）の端（はし）は慕（した）はれにけり

昨年の今月を思い出します。百年の後に東北に関はる小生の理想の実現を期します。御礼まで に 匆々

大正十五年六月十七日

内村鑑三

37.

大正十五年
六月十七日

陸中花巻川口町
齋藤宗二郎様
御礼

大正十五年　六月十七日

東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三

拝啓 穂高へ御
持行きの原稿
至急御届け下
されたく願上げ、
今日~~[illegible]~~井口君
より厚き御礼
達し申候。匆々
12月6日、1928
内村カン三

少々用事があります、すぐ一寸
来て下さい
十二月十八日

郵便はかき

市外杉並町成宗（宇村力三郎氏邸附近）
二六五番地

齋藤宗二郎様

少々用事があります、すぐ一寸来て下さい

十二月十八日

郵便はかき

市外杉並町成宗二六五

齋藤宗二郎様

東京府下淀橋町柏木九一九

内村鑑三

No.

拝啓、陳は来る日曜日より講演会への御出席は差支ありません但し仕事御手傳いの儀は当分御遠慮下さい。委細の理由は御面会の上申上げます。匆々

昭和四年一月三十日

内村鑑三

齋藤宗二郎君

府下 杉並町成宗二六五

齋藤宗二郎様

昭和4年1月30日

東京府外淀橋町柏木九一九

内村鑑三

一九二九、八月十四日　沓掛に於て

御平安を賀します、留守中色々と有がたく存じます、何分宜しく願ひます。当方先づ以て万事可なりであります。只雷の多いのに困ります。独り静に詩人に成り幸福であります。宗教は善き者なれども嫉妬が混じ易く時にイヤに成ります、皆様に宜しく願ひます匆々

斎藤君

鑑三

SHIRAUME

淺間山麓高原植物標本

せんぼんやり

（観山原澤井題）

38.

昭和四年
八月十四日

東京府下杉並町成宗二六五

齋藤宗次郎様

一九二九、八月十四日

信州沓掛なる内村鑑三先生より書翰に

同封し恵與せられし物。

昭和四年八月十四日

軽井沢局區内沓掛

星野十二号

内村鑑三

愛する斎藤君　コムパウンドオキシゼンを手に入れる途はありますまい乎、小生此際之を得たくあります。若し得らるゝならば御尽力を願ひます。頓首

用事まで　早々

1930 二月二十一日

鑑三

TS NO. 1

39.

昭和五年
二月廿二日終

齋藤宗一郎君

電話 姓名 住所

昭和五年〇〇〇〇〇 二月廿二日

一九三〇年

（中）

[illegible]

[illegible]

所 縁

39.

昭和五年
二月廿二日 終

齋藤宗三郎君

カ
二三

手紙只今着、就
ては先日申聞かせ
候通り一先つ帰
帰宅あらるべく候、自
分山へ同道致す

べく候、天気の模様にて成るべく早く帰宅致すべく候、若し十二日に相成り候はゞ午前九時十分成東発にて御出発致さるべく候、左すれば キヨを十二時に両国まで遣はし申すべく候、海保皆様へ殊にお節さんへ萬々

宜しく御傳へある
べく候且つ深く
御礼御述であるべく候

七月八日夜九時
父より

ハツへ

× 7-8

東京府豊多摩郡淀橋町
大字柏木九百拾九番地
内村鑑三

千葉縣山武郡鳴浜村
海保竹松様方
内村ルツ様